

タイピング指導の手引き

1 タイピング指導の取扱いについて

(1) 目的

タイピングは、自分の考えや必要な情報を端末（パソコンやタブレット）に入力したりするための基本的な技能です。小学校入学後の児童が文字を習得する過程で鉛筆の持ち方や書き取り練習を行うのと同じように、正しい指の使い方や適切な速度、正確さを、発達段階に応じた練習を通じて身につけることが、学習を含めた日常生活で端末を使いこなしていく基本的な力になります。タイピングを習得し、思考を妨げることなく端末に情報を入力できる能力として一度身につけてしまえば、今後、増えることが見込まれる、CBT（Computer Based Testing）による各種試験にも対応でき、また、将来の高等教育や社会の現場、日常生活のあらゆる場面において自然と身についた能力として発揮できます。

タイピングにおけるホームポジションの習得は、情報活用能力育成に向けたICT機器の活用推進の基礎として位置づけるとともに、県内すべての児童生徒が、小学校・中学校・高校の各段階で必要なタイピング技能を身につけ、将来にわたって情報化社会を生きる力を育てるための取組として、本手引きを参考に児童生徒の発達段階に応じた技能の習得や向上の機会を設定することを推奨するものです。

(2) 「取組の目安」の取扱いについて

- ア 「取組の目安」は、思考を妨げず端末に情報を入力することを目指すための目安として、練習や実力を測る過程の目標の一つとして取り扱うものとしています。
- イ 「取組の目安」にはそれぞれ学年が設定されていますが、習得には個人差があることを考慮し、個別の達成状況を踏まえた目標としましょう。
- ウ キーボードからの日本語入力はローマ字入力を基本としており、指標もローマ字の入力文字数を基本として示しています。このほか、英字、英文、和文（漢字仮名交じり）等の入力は発達段階、習熟度に応じて個別の目標を設定して練習もしくは入力の機会を用意、指導するようにしましょう。

2 タイピングの指導の機会とポイント

- (1) 指導の機会は特定の学年の各教科及び領域等において、教科横断的（全ての教育活動を通して）に取り扱うほか、週別の朝、帰りの時間等、各校の実情に即して柔軟に設定しましょう。
- (2) ホームポジションの習得には、導入時、利用のツールの選定、指導の機会が必要であり、また、個人での反復練習が必要であることから、児童生徒が主体的に取り組める機会を設定する必要があります。
- (3) ホームポジションの習得後は、適切なツールを利用した練習の機会を設定することで、個人練習でも十分に能力の向上が期待できます。「取組の目安」の達成を目標として取り組ませ、児童生徒の主体性を引き出すため、必要に応じて課題として練習の機会を与えたり、実力を確認する機会を設けたり

するなど、学校の実情にあわせた計画的な取組を進めましょう。

3 指導上の留意点

- (1) 探究活動等の中で、PC を用いて効果的かつ効率的に表現活動をすることで、学習がさらに充実します。しかし、一定程度のタイピングスキルがないと、素晴らしいアイデア等も他者に伝えることができません。短時間でも継続的にタイピング練習することで、ホームポジションによるタイピングができるようになったという事例があります。

【参考資料】

文部科学省「StuDX Style デジタル学習基盤で加速する深い学び」

ローマ字テストとタイピング <https://www.mext.go.jp/studxstyle/skillup/5.html>

隙間の時間を利用してタイピング力UP <https://www.mext.go.jp/studxstyle/skillup/6.html>

- (2) 小学校低学年・中学年では、読解力や計算力、友人との対話や遊びによって情動スキルや基礎的体力が育つ重要な時期もあります。次のスケジュール例のような時間の使い方や、日常の活動にタイピングの必要がある場面を設けることで無理なくタイピングスキルを向上させることができます。

1日のスケジュール例

時 間	8:10 8:30	8:15 8:30	8:30 8:40	8:40 9:25	9:30 10:15	10:15 10:30	10:35 11:20	11:25 12:10	12:10 13:00	13:00 13:25	13:30 13:45	13:45 14:35	14:40 15:25	15:25 15:35	15:35 16:25
時 程	登校 ・諸準備	朝学習	朝の会	1校時	2校時	業 間休 み	3校時	4校時	給食	昼 休 み	清 掃	5校時	6校時	帰 りの会	放 課 後活 動
	※1	※2				※1				※1				※3	

※1 目的をもって端末を自主的に使用できる時間とし、タイピング練習を可とする。

※2 週1回～隔週1回など学校の実情に合わせて実施する。

※3 連絡事項や1日の振り返りに端末を使ってテキストで入力させる。(端末の持ち帰り、在家庭時間におけるタイピング練習の奨励)

- (3) 児童生徒の特性や発達段階に応じた指導を行うとともに、技能を偏重するような取組とならないよう留意しましょう。

4 取組の目安（参考例）

校種	学年	達成を目指す取組の内容
小学校	1・2年	<input type="checkbox"/> 指定されたキーを入力できる <input type="checkbox"/> 自分のアカウント情報（パスワードなど）を入力して端末を利用できる
	3・4年	<input type="checkbox"/> ホームポジションを知っている <input type="checkbox"/> 「F」「J」を基本に正しい指使いで入力できる（ホームポジションの習得） <input type="checkbox"/> ローマ字で自分の名前を入力できる <input type="checkbox"/> ローマ字で簡単な単語を入力できる <input type="checkbox"/> 自分で考えた文をローマ字で入力できる
	4～6年	<input type="checkbox"/> 正しい指使いで正確、丁寧に入力している <input type="checkbox"/> 自分の入力速度を知っている <input type="checkbox"/> ひらがな5文字の単語を5秒以内に入力できる <input type="checkbox"/> ひらがな6文字以下の単語5語を続けて間違えず入力できる <input type="checkbox"/> ローマ字で習熟度レベル①を達成できる
中学校	1年	<input type="checkbox"/> ローマ字で習熟度レベル②を達成できる <input type="checkbox"/> 英字パングラムの例文を間違えず入力できる <input type="checkbox"/> 10語程度の英文を間違えずに入力できる
	2・3年	<input type="checkbox"/> 英字で習熟度レベル②を達成できる
高校	1～3年	<input type="checkbox"/> ローマ字で習熟度レベル③を達成できる <input type="checkbox"/> 英文で習熟度レベル③を達成できる <input type="checkbox"/> 和文で習熟度レベル③を達成できる

5 習熟度ごとの目標

習熟度	継続時間（分）	入力文字数（字）	入力精度	備考
レベル①	1	60	60%以上	
レベル②	3	180	70%以上	
レベル③	5	300	80%以上	

※ 使用するツールによって結果が異なることがあるため、学校の測定環境に応じた内容で提示しても良い。

6 指導例

(1) ホームポジションの習得

使用ツール	(例) 無料タイピング教材「マナビジョン」 ※ 各学校または市町村教育委員会ごとに設定 https://manabi.benesse.ne.jp/gakushu/typing/
実施学年	小学校 3～4年生
指導の場面	朝学習等の時間（15分）
指導方法（全3回） ※3回目の指導後は、各自で練習に取り組める機会を設定する。	<p>◆1回目</p> <p>① タイピングについての説明（10分）</p> <ul style="list-style-type: none">・「タイピング導入のためのリーフレット」配布（印刷、電子の媒体は学校で選択可能）・リーフレットを使用して概要を説明、説明後、二次元コードなどを利用し練習用ツールまで誘導。・【参考】https://edu.web.nhk.school/watch/clip/?das_id=D0005320370_00000 <p>② 練習用ツールの使い方の説明（5分）</p> <ul style="list-style-type: none">・練習用ツールの大まかな使い方を説明。・実際に動かし、操作させる。 <p>◆2回目</p> <p>① ホームポジションの説明（10分）</p> <ul style="list-style-type: none">・ホームポジションの基本として右手人差し指「J」左手人差し指「F」の位置を説明。・両手それぞれの指はそれぞれ決まった文字が割り当てられていることを説明。・ツールを使った練習の説明。 <p>② 練習（5分）</p> <ul style="list-style-type: none">・「J」と「F」の位置を意識させ、ツールを使った練習を行う。 <p>◆3回目</p> <p>① ホームポジションを練習するときの目標を設定（5分）</p> <ul style="list-style-type: none">・決まった指で決まったキーを入力することを意識させる。・はじめは、確実性を重視し、速度よりも間違わずに入力できるように練習すると上達が早い。 <p>② 練習（10分）</p> <ul style="list-style-type: none">・児童生徒それぞれの習熟度に応じて練習内容を自分で決めさせる。・既にホームポジションが身についている生徒は、次のステップ（ローマ字入力）に進ませると良い。

(2) タイピングによるローマ字の入力

使用ツール	(例) 無料タイピング教材「マナビジョン」 ※ 各学校または市町村教育委員会ごとに設定 https://manabi.benesse.ne.jp/gakushu/typing/
実施学年	小学校 3～4年生 ※ローマ字を授業で取扱い済み
指導の場面	朝学習等の時間（15分）
指導方法（全2回） ※3回目以降は2回目の繰り返しか、すべての時間を練習に割り当てて良い。	<p>◆1回目</p> <p>① タイピングについての説明（10分）</p> <ul style="list-style-type: none"> 既にホームポジションが身についている生徒は、できるだけ画面だけを見て入力する練習を行わせる。 ホームポジションがまだ身についていない生徒には、いつも「J」と「F」の位置を意識させて、キーボードを見ながら、それぞれのキーに指に割り当てられた指で入力することを目標に練習させる。 <p>② 練習（5分）</p> <ul style="list-style-type: none"> ツールを使わない練習を行う場合は、ローマ字で入力する単語や文などの課題をあらかじめ用意すると良い。ローマ字が身についていない児童生徒には、対応表などを用い練習させる。 課題が終わった児童生徒に対しては、それぞれの習熟度に応じて練習内容を自分で決めさせる。 <p>◆2回目</p> <p>① タイピングについての説明（5分）</p> <ul style="list-style-type: none"> ホームポジションの習得の度合いに応じ、「取組の目安」を参考に目標を確認する。 <p>② ツールを使った練習（10分）</p> <ul style="list-style-type: none"> 児童生徒それぞれの習熟度に応じて練習内容を自分で決めさせる。 練習がある程度進んだ児童生徒には、自分の実力（1分あたりの入力文字数、正確さなど）を確認させる。

(3) 日的なスキマ時間の取組

使用ツール	<p>①② 文書が入力可能なツール ③ (例) 無料タイピング教材「マナビジョン」 ※ 各学校または市町村教育委員会ごとに設定 https://manabi.benesse.ne.jp/gakushu/typing/</p>
実施学年	全年生 (ローマ字入力まで実践済み)
指導の場面	① 毎日帰りの会 ② 各授業における「振り返り」 ③ 朝学習や休み時間
指導方法	<p>① 毎日の振り返りや記録等を端末で行う 每日帰りの会で、小学校であれば「日記」・「一日の振り返り」または宿題や持ち物など「連絡」、中学校であれば「記録」(毎日4行程度の記録が目安)など、毎日の取組に端末を活用する。(連絡の記入をする場合には、端末の持ち帰りが必須となる)</p> <p>② 各授業における「振り返り」を端末で入力 個人の学習履歴として残すだけではなく、協動作業ツールなどを使うと、児童生徒間で入力した内容を共有することができる。</p> <p>③ 朝学習や休み時間を利用したタイピング練習 検定の機会等を設定し、休み時間等で、児童生徒が検定に向け、楽しみながら意欲的に取り組めるとよい。 ※ ①・②を毎日の活動に位置づけることで、指導と習得の機会を確保する。 ※ ③について教師の指示で端末を使用させている学校では、教師が付く時間内で行うなど工夫が必要</p>